

平成29年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 農業大学校畜産学部 養豚科

1 目的

光線管理による生産性向上技術は採卵鶏で進んでいるが、豚などの哺乳動物は明期に分泌されるセロトニンと暗期に分泌されるメラトニンが重要な役割を持ち、明期と暗期のバランスが重要であると考えられている。そこで、飼養管理技術の一環として、光線管理を実施し、母豚の繁殖性や子豚の発育性などについて、プロジェクト活動として取り組み、学生の就農意欲を高めたい。

2 実施状況

(1) 光線管理豚房整備実習の実施

活動内容, 効果

当科分娩待機豚房に助成金を活用して豚房を整備し、光線管理のために照明設備を設置した。

豚房整備は学生の専攻学習の一環として鋼材の切断や溶接実習、給水器の組み立て、取り付け、子豚保温箱の作製実習を実施し、学生の技術の習得を図った。



(2) 光線管理の実施

活動内容, 効果

養豚科分娩舎分娩房を対照区とし光線管理の試験区を設置し、母豚の繁殖性や子豚の発育などについて調査している。試験区の光線管理は繁殖性などに効果のあるといわれている1日14時間(6時から20時まで)の光線管理をしている。

しかしながら、光線管理によるものと判断できる効果は見られていない。



3 今後の課題, 取り組み

今後体重による養分要求量を考慮した試験区の設定を行い、分娩後の発情回帰まで日数など繁殖性の変化や子豚の発育性を検討する。

